

◆ 大町ひじり学園だより ◆

第 10 号

令和元年11月22日
大町町立小中一貫校
大町ひじり学園
(文責 尾崎 達也)

ひじりだけ



みなさん、おはようございます。今日は学習委員長が朝の話ということで2つ浮かびました。1つは文化発表会の気持ち。2つ目は委員長としてのこれからの事についてです。まずは文化発表会のことなのですが、みんなはどんな気持ちで作り上げたいですか。色んな考えがあると思う。じゃあ、変わりたいとか自分が嫌いとか思っている人いる？手を挙げてみて。僕が話すことはこの変わりたいってことです。今、生徒会として頑張っているけど、小学生の頃は不登校でした。たまにしか来ない、めちゃくちゃ暗くてヤバイ子でした。今も随分ヤバイけど8年の終わりから変わったんです。そのきっかけが文化発表会でした。7年生まで行事なんて大嫌いで、人と話したくなかったんだよね。でもなんか話したくないって思う自分がすごく嫌いで変わりたいって思ったの。それで頑張りたいけど、運動は上手じゃない。なら、文化発表会はと思って、劇の監督に応募したんだ。そしたらすんなりと決まっちゃって。やった事ないのに、どうしようかと思ったけど、みんなのために頑張らなきゃ、もっと嫌われるって思って自分なりに滅茶苦茶頑張ったの。そしたら先生から褒められてめちゃ嬉しくて、自分なりでいいんだって思って。そこから、何でもやりたく、頑張りたいって性格も前向きになれて。元々まじめな性格ってのが良かったのか、やらなきゃいけないことのために学校に行こう、行きたいって思うようになっていたら体調も良くなって。僕が何を言いたいかというと、変わりたいと思うんだったら自分が何となくできそうなことでいいから「きっかけ」を作ることです。深く考えずにパッと進んで一歩出るだけで意外と簡単に変わる。変わったって実感求めなくてもまっすぐ進めばそのうち気づくから。だからこそ、そのきっかけを文化発表会に置いてみたらどうかかなと思います。僕の話が頭にの残った人は本当に変わりたいって思っている人なんじゃないかな。長くなったけど2つ目です。これから寒くなって、だいぶ勉強がしやすくなります。そのチャンスを逃さないでください。テストと文化発表会準備で疲れると思うけど体調崩さないように自分なりのやり方を見つけてください。7・8年生は目の前にあるテスト、9年生は受験に向けて頑張りましょう。これで終わります。



これは文化発表会前の生徒朝会で学習委員長の千綿麗陽君(9年生)が中学部の仲間に話した内容です。千綿君の了承を得て掲載しています。この話を聞いて感動したので学校だよりに掲載しました。千綿君の話は毎回、心に染み入ります。「自分の言葉で話している。」「落ち着いた声、語り掛けるような話しぶりである。」からでしょう。私が見習いたいくらいです。

子ども主張大会

昨年より町の文化祭の前に実施していただいていた子ども主張大会を豪雨災害による文化祭中止を受け、学校で実施しました。司会進行なども含め町青少年育成町民会議の皆様方の全面ご協力を得て実施できました。

- 5年 津野未来 「みんなが安心して生活できる社会」
- 6年 吉谷香音 「地域との関わりで明るい未来」
- 7年 吉村花凜 「震災について思うこと」
- 8年 本村真璃愛 「自動・動物の虐待について」
- 9年 相原未奈 「Onwatashi(Pay It Forward)」
- 9年 大野陽太郎 「Give It All You've Got Until the VeryEnd」

それぞれ、素晴らしい発表でした。みんなの前で、堂々とした態度でノー原稿でスピーチができるのですから、大したもの。この様子はケーブルテレビでも放映されていました。発表者一人一人に町青少年育成町民会議の方から記念品を贈呈していただきました。ありがとうございました。

